

第4章 医学部保健学科・大学院保健学研究科

資料1 部局史（10年間の主要な動向）

医学部保健学科・大学院保健学研究科における、2009年（平成21）4月から2018年（平成30）12月に至るまでの10年間の主要な動向を年次別に示す。

2009年（平成21）

検査技術科学専攻に細胞検査士養成課程の開講（定員5名）

2010年（平成22）

博士前期課程に被ばく医療コース開設

保健学科カリキュラムに「放射線防護の基礎（1単位）」の開講（2016年度からは「環境と生活—放射線の理解（2単位）」

「現職者研修」開始（2016年度からは「被ばく医療研修」）

2011年（平成23）

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故後の被災住民支援開始
弘前大学医学部保健学科開設10周年記念式典開催

「緊急被ばく医療国際シンポジウム」（2011～2013年度）

2012年（平成24）

看護学専攻の保健師国家試験受験資格の取得を選択制に変更（定員20名程度）

2013年（平成25）

校舎改修工事開始（2015年度まで）

文部科学省特別教育研究事業「緊急被ばく医療の教育・研究体制の高度化及び実践プログラムの開発—高度実践被ばく医療人材育成グローバル拠点の形成—」（2013～2015年度）

「福島災害医療セミナー in 弘前」開始

2014年（平成26）

博士後期課程で外国人留学生特別選抜（募集人員若干名）開始

環境省原子力災害影響調査等事業「浪江町住民に対するリスクコミュニケーションに係る拠点の設置」開始

「若手研究者のための放射線と健康に関する教育シンポジウム（E S R A H）」開始

2015年（平成27）

博士前期課程に放射線看護高度看護実践コース開設

博士後期課程に被ばく医療コース開設

弘前大学大学院保健学研究科・弘前大学被ばく医療総合研究所総合研究棟等竣工記念式典開催

2016年（平成28）

「被ばく医療人材育成推進プロジェクト」の展開

博士前期課程・後期課程をともに4領域（看護学、放射線技術科学、生体検査科学、総合リハビリテーション科学）に組織改編

博士前期課程の入学定員を25名から30名、博士後期課程の入学定員を9名から12名に増加

2017年（平成29）

入学試験方法の変更（AO入試の開始）

博士前期課程で外国人留学生特別選抜（募集人員若干名）の開始

放射線看護高度看護実践コースが日本看護系大学協議会より放射線看護分野の高度実践看護師教育課程に認定

放射線看護教育支援センターの設置

2018年（平成30）

放射線看護高度看護実践コースが文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定

資料2 弘前大学医学部保健学科開設10周年記念式典式辞

式辞

弘前大学医学部保健学科開設十周年記念式典を挙行するにあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

弘前大学医学部保健学科は平成十二年十月一日に本学における最も新しい学科として設置されましたが、本日、その開設十周年記念式典を計画させていただきましたところ、文部科学省高等教育局医学教育課長 村田善則 様、青森県知事 三村申吾 様をはじめ、多くの方々のご参列を賜り、誠に光栄に思う次第であります。ご多忙の中、ご参列賜りました皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、弘前大学医学部保健学科は、昭和五十年四月に設置された弘前大学医療技術短期大学部と、昭和四十三年四月に設置された弘前大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程の統合により、平成十二年十月一日に開設されました。昭和五十年に設置された医療技術短期大学部には、さらに遡って昭和二十六年の医学部附属看護学校の設置に始まる長い歴

史があり、それ以来、現在の医学部保健学科は看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の5専攻からなる、我が国有数の規模を持った保健学科となっております。この間、多くの医療従事者と教育・研究者を輩出し、我が国の医療に大きな貢献をして参りました。

また、原子力関連施設を抱える青森県にあって、万が一の被ばく事故に対応するための取組として、平成二十年度から文部科学省特別経費の支援を受けた「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」を、医学研究科、医学部附属病院と協力して実施してきました。さらに、平成二十二年度からは同じく文部科学省科学技術戦略推進費の助成によって「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」にも取り組んでおります。これらの取組によって、学内の教職員はもとより、県内のさまざまな職種の特任者が万が一の事故に適切に対応する体制を地域全体で構築することを目指してきました。これらの取組の成果は、はからずもこの三月に発生した福島原発事故に対して大きな役割を果たすこととなり、本学からは、被ばく医療に関する研修を受けた多数の特任者のべ五百人以上が

被災地に赴き、住民の被ばく状況の調査や、「一時立ち入りプロジェクト」の支援を担当し、被災地住民をはじめ、社会から高く評価されております。現在は、復旧・復興を目指した研究および支援活動を継続的に実施しているところです。これらの取組において、医学部保健学科の教職員が中心的役割を果たしてきたことは、これまでの教育・研究の成果を社会貢献に生かした大きな実績の一つと言ってよいと思いません。

弘前大学医学部保健学科教職員は、これからも一致協力して教育・研究活動に邁進することで、社会の期待に応えて参る所存であり、開設十周年にあたり、その決意を新たにします。ありがとうございます。今後も、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。私の式辞と致します。

平成二十三年十月十七日

弘前大学医学部長 佐藤 敬



弘前大学医学部保健学科開設10周年記念式典 医学部長式辞

資料3 弘前大学大学院保健学研究科・弘前大学被ばく医療総合研究所総合研究棟等竣工記念式典式辞

式 辞

本日、ここに弘前大学大学院保健学研究科・被ばく医療総合研究所総合研究棟等竣工記念式典を開催するに当たり、関係各位には心から御礼申し上げます。文部科学省からはお忙しい中、文教施設企画部計画課長の平井 明成（ひらい あきしげ）様にお越し頂いております。誠にありがとうございます。

保健学研究科の校舎改修は、Ⅰ期工事が平成25年2月から開始され、ひきつづきⅡ期工事、Ⅲ期工事が行われ、2年半を超える期間にわたる改修となりました。またⅠ期改修工事とともに総合研究棟F棟が新営され、被ばく医療総合研究所が配置されました。この間に、文部科学省をはじめ、佐藤学長、理事、施設環境部長等の多くの関係者のご支援とご理解を頂き今日に至りました。また工事関係者の絶大なご協力により竣工に至っております。改めて関係各位にこころから御礼を申し上げます。

総合研究棟F棟の新営、A、B、C、D棟の改修により、総面積も増加し、希望していた大学院の講義室、研究室、被ばく医療関係の研修室、演習、実習室、そして被ばく医療総合研究所が整備されました。また、学部学生演習室や就職支援室も整備されましたので、学部学生、大学院生そして教員にとりましても効果的な講義、実習、研究が展開できるものと期待しております。第Ⅰ期改修の開始から本来の形で講義や実習を受けることができなかった学生や、永きにわたり研究室の仮住まいをした教員や事務職員がおりますが、数十年に一度の大改修ということで、この機会に遭遇できたのは幸運と思って竣工を待ちわびておりました。全ての改修、新営が終了した姿は、やはり素晴らしい建物に変身したと思っております。

今後は、この建物に見合うような教育・研究に励んでいきたいものと考えております。

本日は誠にありがとうございます。

平成27年9月29日

弘前大学大学院保健学研究科長 木田和幸



弘前大学大学院保健学研究科・被ばく医療研究所
総合研究等竣工記念式典 テープカット

資料4 医学部保健学科入学者数及び卒業生数、進路状況

入学者数

専攻	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
看護学	81	80	80	80	80	80	80	81	80	82
放射線技術科学	41	40	40	40	40	40	40	40	40	40
検査技術科学	40	40	40	40	40	40	40	40	41	40
理学療法学	21	21	21	21	20	20	20	21	21	22
作業療法学	20	20	20	21	20	20	21	20	22	20
合計	203	201	201	202	200	200	201	202	204	204

卒業生数

専攻	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
看護学	88	85	87	86	88	80	86	79	79
放射線技術科学	42	40	44	42	39	35	44	35	40
検査技術科学	37	45	40	40	36	40	45	42	47
理学療法学	18	18	18	24	23	19	19	20	20
作業療法学	19	22	21	20	21	17	20	20	20
合計	204	210	210	212	207	191	214	196	206

卒業後の進路状況

専攻		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
看護学	就職	83	80	80	81	83	74	81	75	72
	進学	5	4	2	1	2	5	4	4	5
	その他	0	1	5	4	3	1	1	0	2
放射線技術科学	就職	41	38	40	32	29	32	30	28	23
	進学	0	2	2	5	6	1	9	6	9
	その他	1	0	2	5	4	2	5	1	8
検査技術科学	就職	30	42	38	37	32	37	40	37	42
	進学	6	2	2	1	3	3	1	4	3
	その他	1	1	0	2	1	0	4	1	2
理学療法学	就職	14	13	16	18	15	12	13	19	15
	進学	4	2	1	5	5	5	5	1	5
	その他	0	3	1	1	3	2	1	0	0
作業療法学	就職	18	17	21	19	21	16	17	16	19
	進学	0	0	0	1	0	1	3	3	0
	その他	1	5	0	0	0	0	0	1	1

資料5 保健学研究科入学者数及び修了者数、進路状況

入学者数

専攻	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
博士前期課程	25	25	22	21	27	30	29	36	32	32
博士後期課程	9	10	10	8	14	11	11	12	10	14
合計	34	35	32	29	41	41	40	48	42	46

修了者数

専攻	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
博士前期課程	22	21	26	22	20	25	24	26	35
博士後期課程	9	7	10	8	13	4	7	12	9
合計	31	28	36	20	33	29	31	28	44

修了後の進路状況

専攻		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
博士前期課程	就職	21	19	15	18	13	17	16	21	23
	進学	1	2	1	3	6	7	7	5	11
	その他	0	0	0	1	1	1	1	0	1
博士後期課程	就職	9	7	10	8	13	4	6	12	9
	進学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0

資料6 研究業績数の推移

		2009	2010	2011	2012	2013	2014	計	
英論文	原著	60	48	87	96	77	62	430	436
	総説	0	2	1	3	0	0	6	
	小計	62	50	88	99	77	62		
和論文	原著	37	65	49	66	62	58	337	476
	総説	13	26	26	30	15	29	139	
	小計	50	91	75	96	77	87		
著書	日本語	14	10	21	28	17	29	119	126
	英文	1	0	1	1	3	1	7	
	小計	15	10	22	29	20	30		
学会発表 (国際学会)	一般	32	45	63	53	50	58	301	330
	招待	6	8	5	5	3	2	29	
	小計	38	53	68	58	53	60		
国内学会招待発表		14	5	9	14	12	9	63	
紀要		26						26	
商業雑誌		12						12	
その他(訳本, 報告書)		13	22	29	25	12	14	115	
計		230	231	291	321	251	262	1584	

各年度の自己点検報告書から作成、2010年以降の紀要と商業雑誌は判別困難であるため和論文かその他に含めている。

2015年以降は、業績を確認できる資料がないため作成していない。

資料7 科研費の年度別採択件数と決定額

年度	申請 件数	採択 件数	新規	継続	採択率 (%)	年度決定額 (直接経費)(円)	年度決定額 (間接経費)(円)
2009	95	20	16	4	18.9	30,070,000	8,781,000
2010	95	24	12	12	25.3	30,840,000	8,712,000
2011	101	34	15	19	33.7	39,535,630	11,860,689
2012	110	33	12	21	30	34,064,370	10,219,311
2013	106	41	15	26	36.4	50,400,000	14,880,000
2014	99	33	12	21	33.3	43,000,000	12,900,000
2015	103	37	16	21	35.9	48,100,000	14,430,000
2016	95	42	16	26	44.2	58,996,962	17,699,089
2017	102	39	9	30	38.2	53,200,000	15,960,000
2018	98	44	16	28	44.9	76,500,000	22,950,000

資料8 共同研究・受託研究の年度別件数と決定額

年度	共同研 究件数	研究経費(円)	受託研 究件数	年度決定額 (直接経費)(円)	年度決定額 (間接経費)(円)
2009	7	13,191,562			
2010	4	2,100,000			
2011	4	5,040,000	6	21,024,000	0
2012	1	400,000	6	12,000,000	730,000
2013	1	300,000	10	22,910,772	0
2014	5	300,000	8	26,891,158	1,707,449
2015	4	0	8	28,911,780	3,971,114
2016	6	2,500,000	6	15,379,642	2,695,108
2017	18	16,904,530	6	15,075,676	2,219,600
2018	4	1,724,000	3	13,289,655	3,686,896